

認定看護師 出張講座のご案内



認定看護師とは、日本看護協会にて認定される資格であり、特定の分野において十分な経験を積み、専門的な教育を受けた看護のエキスパートのことです。

職種を問わず、皆様からのご相談をお待ちしております。是非ご活用下さい。

認定分野	研修・講義内容	テーマの例
<脳卒中リハビリテーション>		
宮澤知佳	脳卒中リハビリテーション看護では、脳血管障害のある患者様（脳梗塞や脳出血など）の急性期からの意識改善・早期離床のアプローチの他、高次脳機能障害のある患者様の援助などリハビリテーションを通し支援していく分野になります。脳卒中は麻痺などの後遺症が残存することも多く生涯にわたり向き合っていく疾患になります。患者様や家族への疾患の理解やサポートが必要となり生活再構築や再発予防の指導も行っていくことが重要です。その人らしさのある生活に戻れるような看護支援を目指して活動しています。	<ul style="list-style-type: none"> 脳血管障害の概要 脳卒中解剖生理 意識障害に関するアプローチ 廃用症候群について 離床について 脳卒中に関するフィジカルアセスメント 再発予防について など
<感染管理>		
阿部則子	感染対策の基本は、スタンダードプリコーション（標準予防策）です。血液や汗以外の分泌物、排泄物、粘膜、傷のある皮膚は、感染する可能性があるものと考え対応していくことが大事になります。個人防護具（手袋やマスク、ビニールエプロン等）の着脱の順番や方法、手指衛生の「WHO が提唱する 5 つのタイミング」を理解して頂けるような研修会や講義を行っています。新しい感染症の情報や手指衛生など感染防止対策について知りたい、聞きたい、学びたい、取り組みたいことがあればご要望に柔軟に対応致します。	<ul style="list-style-type: none"> 手指衛生 標準予防策 医療感染関連防止対策 クロストリジウム・ディフィシル感染防止対策 など
<緩和ケア>		
菊地浩子 高野祐紀	緩和ケアとは、がんだけでなく生命を脅かす病気によって生じる体や心の辛さ、生活上の問題などに対して早いうちに関わることで、患者さんが安心して生活ができるように援助するケアのことです。家族や遺族も緩和ケアの対象になると言われています。体の痛みや心の悩みなどの辛い症状に関することや実際の関わり方から家族へのケア、亡くなった患者さんのケア(エンゼルケア)や振り返りなど、勉強会を通して各病院や各施設の皆様と一緒に意見交換を行いながら学びを深めていきたいと考えております。	<ul style="list-style-type: none"> 痛みやその他の症状コントロールとその看護 家族（遺族）看護（デスカンファレンスの開催相談） リンパマッサージ 口腔ケア エンゼルケア など

<皮膚・排泄ケア>

横澤真姫子
庄司沙織
佐藤静恵

皮膚・排泄ケアでは、身近なスキンケアや排尿・排便のトラブル、創傷ケアなど幅広く関わる機会の多い分野です。普段行っているスキンケアや排泄ケアで疑問に思うことやケアを行う際のコツなどケアに関すること。褥瘡やストーマ、女性の骨盤臓器脱など局所のアセスメントをどうすればよいかなど、看護や治療に関すること。治療に伴う意志決定や精神的ケアに関すること。創傷被覆材やケア用品に関すること。社会的サポートについて。など患者さんが安心、安全に生活できるようお手伝いしていきます。

- スキンケアについて
- 褥瘡発生のメカニズム、予防策、ケアや処置方法、褥瘡評価方法
- ストーマサイトマーキング、術前術後のケア、装具の選択、合併症対策、社会的サポート
- 創傷ケアについて
- 排尿・排便ケア、ケア用品
- 医療テープ、医療機器等による皮膚トラブル予防についてなど

<がん化学療法看護>

武田さち子

化学療法は新薬の登場など進歩が著しい分野です。「観察ポイントは?」「患者さんへの説明は?」など治療に関すること。「つらい副作用を何とかしてあげたい」「副作用のケアを学びたい」など副作用に関すること。落ち込んだり、治療を迷っている患者さんとの関わり方や家族のケアなど精神的なケアに関すること。抗がん剤から自分の身を守るための曝露対策や、抗がん剤の皮下漏出対策、過敏症発生時の対応などのリスク管理に関すること。
がん化学療法を安全・確実にいき、患者さんが安楽に治療を受けられるようお手伝いします。

- 抗がん剤の曝露対策
- 過敏症の対応
- 副作用のケア
- 心理・社会的サポートなど

<重症集中ケア>

濱野真生子

集中ケアは、重症で生命の危機的状態にある患者さんに対して早期回復に向けた支援を行うことです。また、不安を抱くご家族へのサポートも行います。集中治療の領域では侵襲的な治療も多く、人工呼吸器管理や病態の変化を予測したアセスメントに関する不安も大きくなります。常にベッドサイドにいる看護師が自信を持って安全な看護実践が出来るようフィジカルアセスメントや急変対応等を中心にサポートしていきます。訴えたくても訴えられない患者さんの声を聴けるよう私も一緒に考えていきたいと思えます。

- 呼吸・循環の解剖整理
- 酸素療法
- 人工呼吸器の基礎
- 人工呼吸中の患者ケア（気管吸引や口腔ケア等）
- フィジカルアセスメント
- 急変対応
- 生体侵襲理論
- 体外循環